新潟県民主医療機関連合会ニュース Vol. 172

新潟民医連に加盟する法人・事業所の取り組みを紹介します。 2024年3月13日（水）
発行者：宮野　大

能登半島地震　珠洲市の会員宅訪問

～被災状況はどの震災の時よりも酷い状況、20数件訪問し、会えたのは5件、この地に住み続ける意向を聞けたのは2件だけ～

県連事務局の小網事務局長と坂下次長が、訪問行動に参加しました。
訪問の様子をお伝えします

【どんな行動でしたか】

全日本民医連が呼びかけているもので、3/10（日）の行動に参加しました。**友の会員宅の訪問で、安否確認や、困りごとの聞き取り**がメインでした。支援物資の水や、簡易トイレも配付するつもりで持参しましたが、渡せたのは1件でした。珠洲市は城北病院から距離が離れていますが、振動病やリウマチの患者さんが比較的多くいるので、会員さんも比較的多くいらっしゃる地域でした。

【訪問の中で印象的だったこと】

20数件を訪問をしましたが、**会えたのは5件**（うち1件は工事中の業者さん）で、聞き取りができた中で、**今後もこの地に住み続ける意向を聞けたのは2件だけでした**（この他に工事中の家を入れれば3件？）。聞き取りの時間は約5分程度で、話が続かなかった印象が残りました。

たまたま会えた人の中には、避難先に持っていく物品の回収、少しでも家の片づけをしようと戻ってきた方もいらっしゃいました。そんな中で、城北病院の職員の親御さんの自宅があり、たまたま職員さんも帰省していて、話ができたことも印象に残っています。

【今後の課題】

発災から2か月だった今でも、凄まじい状況がそのままでした。これまで震災支援に複数回行きましたが、どの時よりも酷い状況でした。訪問先のお宅は3分の1が完全に崩壊していて「がれきの山」の様な状態で、もう3分の1は家の原型は留めているが中は大きな被害を受けていて物が散乱していてとても住める状況では無かったし、何とかこれからも住めそうなお宅は3分の1程度で、それでも水道が復旧していない状況で、**本当に言葉を失いました**。またライフラインも復旧していない状況で、この先復旧にどのくらいの期間がかかるのかもわからないと感じました。

日本は地震大国ですから、災害時の環境整備は、他の国々に比較して進んでいると思われるかもしれませんが、実際は惨憺たるものでした。この差がどこから来るのか、人権を大切にすることの重要性を切に感じる訪問行動でした。

隣の家との境界がわからないような状況が続く
景色に言葉を失う場面が多かった

こういった状況下での降雪が
交通をさらに妨げる